

農産物直売所紹介



JAほくさい行田農産物直売所

所在地:富士見町1-8-1 ☎556-2203
営業時間:午前9時30分~午後5時
休業日:水曜日



さいさい 彩菜ファーム

所在地:谷郷2072 ☎555-3252
営業時間:午前9時~午後8時
休業日:なし



古代蓮の里売店

所在地:小針2375-1 ☎559-1178
営業時間:午前9時~午後4時
休業日:月曜日(祝日の場合は営業)、祝日の翌日(土・日曜日の場合は営業)※蓮の開花期(6月下旬~8月上旬)は無休



行田産農産物は、市内3カ所の農産物直売所で購入することができます。また、毎月第3日曜日の午前8時から10時まで(12月~2月は午前9時から11時まで)軽トラ朝市を開催。生産者が軽トラの荷台で新鮮な農産物を販売しており、旬の野菜や果物、花、加工品などが会場に所狭しと並びます。生産者との会話も魅力で、農産物のおいしい時期や食べ方を直接聞くことができます。卵のつかみ取りなどのイベントも不定期で行われる他、お得なポイントカードもあり、にぎわいをみせています。

**直売所・軽トラ朝市で
行田産農産物を**



にぎわいをみせる行田軽トラ朝市

毎月第3日曜日以外にも、市内各地でイベントなどの際に臨時出店することもあります。

地産地消を推進し、もっと多くの方に気軽に行田産の農産物を食べてもらうために「地産地消応援団」を募集しています。これは、市産農産物を使用したメニューを提供したり、市産農産物の商品開発や販売促進をしたりする市内の飲食店や農産物加工業者、小売店、施設などを地産地消応援団として登録してもらうものです。登録した事業者にはオリジナルステッカーを交付し、店舗などに掲示していただいています。登録を希望する方は、農政課で配布する登録申請書(市ホームページからダウンロード可)に記載

地産地消を応援



地産地消の良いところは、生産者と消費者の距離が近いので新鮮で安心・安全、おいしいということ。また、輸送にかかるエネルギー(二酸化炭素など)を削減できることです。地場農産物への愛着心・安心感が深まることにより消費が拡大すれば、地元の生産者を応援することになります。

市では、学校給食で平成10年から地場産物の使用を始めており、特に米は行田産彩のかがやきを年間利用し、米飯として週に3~4回子供たちに提供しています。また、最近注目されている豆特有の香りが高く濃厚な味わいが人気の行田在来青大豆は、枝豆以外にも地元和・洋菓子店や豆腐店などにより豆腐、まんじゅう、せんべい、アイス、クッキーなどさまざまな形に加工され、販売されています。

広がる地産地消の取り組み

● 地元で作られた農産物を地元で消費する取り組み「地産地消」。
● 今月は、おいしい行田産の農産物を地元の方々に食べていただくための取り組みについて紹介します。

地産地消を進めようために

これからも行田産農産物の地元での消費を進めていくために、これまで紹介した事業の他にも、学校給食を児童、生徒の保護者と生産者に食べていただく学校給食交流会や行田在来青大豆の商品開発などに取り組んでいきます。ぜひ、行田産のおいしい農産物を味わってみませんか。

▼問い合わせ 農政課農政担当(内線3087)

11月は「埼玉県地産地消月間」

県では、新米をはじめとする多くの農産物が出そろった11月を「埼玉県地産地消月間」と定め、「近いがうまい埼玉産」をキャッチフレーズに、地産地消の取り組みを進めています。県ではこの期間に合わせて、量販店などにおける埼玉県フェアの開催や飲食店での期間限定メニューの販売など県内各地で埼玉の農産物を味わうことのできる取り組みを行います。

また、市では11月23日にぎょうだ「夢」まつりの中の農業祭ブースで農産物や加工品の販売を行います。地産地消を考えるきっかけとして出掛けてみてはいかがでしょうか。

安くて おいしい行田産

新鮮 安心 安全

地産地消



太田 勇さん
(行田市花卉園芸組合長)

「地産地消はお米や野菜など食べ物のイメージが強いですが、地元で栽培された「花」を地元で飾ることも「地産地消」の取り組みです。ぜひ、地元の「花」を身近に楽しんでください。



中野 勇さん
(行田市地産地消応援団)

青大豆など地元で種れたものを使った和菓子などの商品は、皆さんに喜ばれています。これからは、「地産地消」につながるおいしいものをたくさん作っていきます。ぜひ、ご賞味ください。

インタビュー

